

第42回県・横浜・川崎・相模原四首長懇談会(共同記者会見)

平成28年11月14日(月) 17:07~17:30

小田急ホテルセンチュリー相模大野 フェニックスⅡ、Ⅲ

【事務局(相模原市)】 大変お待たせいたしました。ただいまから共同記者会見を開催させていただきます。なお、質疑につきましては、本日の懇談会に関するものとさせていただきますので、ご了承いただきますようよろしくお願いいたします。

初めに、座長でございます加山相模原市長から本日の懇談会の所感について一言いただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【相模原市長】 それでは、先ほど第42回県・横浜・川崎・相模原四首長懇談会が終了いたしました。懇談会では、精神障害のために措置入院になった方への支援の充実に向け、今後四州市が連携した取組を検討することなどを合意しました。また、四州市としまして、障害者の偏見や差別をなくすことにつきまして、社会全体に発信をするため、共生社会の実現に向けた共同アピールを合意いたしました。今回のような事件を二度と起こさせてないよう、我々は断固たる決意をもって取り組んでいかなければならない。そのような決意を新たに持ったところでございます。また、そのような社会をつくり上げていくことにつきましては我々の責任でございますし、神奈川県、県内指定都市が先頭に立って、取り組むことが大変意義があるものということだと思っております。

これから、実際に現場を担っていく立場で詳細な取組を検討してまいりたいと思っておりますが、実効性のある取組としまして、全国の自治体の参考になればよいと考えているところでございます。

私からは以上でございます。

【事務局(相模原市)】 はい、ありがとうございます。

それでは、記者の皆様からのご質問をお受けしたいと思います。ご質問の際には挙手をしていただきまして、社名とお名前をおっしゃってご発言をいただきたいと思っております。初めに、相模原記者クラブ幹事社のNHKさんからお願いいたします。

【NHK】 すみません、幹事社NHKの古賀です。よろしくお願いいたします。

先ほど、障害者の措置入院解除後の対応について今後、検討を進めるということなんですけれども、これは具体的にどういうメンバーでどういった形で検討というのは進めていくような形になるのでしょうか。座長の加山市長。

【相模原市長】 今回の事件については大変凄惨な事件でありますので、今後このようなことがないようにと意見交換したわけですが、措置入院者の支援の充実ですとか、四州市で連携をしっかりと行っていこうという確認をしたわけです。今、国で検証チームがいろんな検証を行っておりますし、課題があればそれに対する新たな方向性が示されるのではないかと考えているところでございます。

そういった中で、四州市が連携しまして新たな取組を事務レベルでも検討していかなければならないと思っておりますし、神奈川県さんも独自に検討をされていると伺っております。国の検証結果等を見まして、いろんな連携を行って、対応をしまして、二度とこのような凄惨な事件が起きないようにしっかりと進めていきたいと思っております。

【NHK】 すみません、それは検討チームとかそういった形は新たに設けるといようなお考えなんですか。

【相模原市長】 具体的には、所管部局ですでに連携している部分もありますので、制度を掘り下げて対応をしていきたいと、思っております。

【NHK】 それは今後、まずは措置入院で県内に転居をした場合については、県内においてはせめて情報を共有できるような仕組みをつくりたいということを今後の取組の具体例として挙げられているんですが、これについてはまずは担当者レベルで、検討を進めていく、実施に向けた検討を進めていくということよろしいですか。

【相模原市長】 そうですね。現在も措置入院の対応については四州市で連携しておりますけれども、今回の事件において問題とされた情報の共有またそのフォローについては、どうあるべきかしっかりと方向性を決めていきたいと思っております。

【NHK】 それは、四州市の担当者レベルでというような形になるのでしょうか。

【相模原市長】 新たに特別に検討チームをつくることは考えておりませんが、事件が起きる前から、連携しておりますし、それぞれの県・市でもどうあるべきか検討がされていると思いますので、それを統合していく考えを持っております。

【NHK】 いつごろまでに実際、実施していきたいとか目処はあるんですか。

【相模原市長】 国の検討チームが近々最終報告をする予定ですので、内容を確認しながら1日も早い対応策を進めていきたいと思っております。

【NHK】 今回、知事もおっしゃっていたんですけども、この措置入院の問題とこの事件の問題というのはある程度切り離して考えるということも必要だと思うんですが、ただ、いずれにしても措置入院のフォローアップには課題があるということが今回の事

件で明らかになっているわけで、そこを四州市で今後どうしていくかということは、やはり最終的には何らかの結論というのを出していかなきゃいけないと思うんですが…

【相模原市長】 フォローの問題ですが、病院、医師や措置入院の権限を持つ県や指定都市の役割など、いろいろな部分でまだまだ整理をしなくてはならないこともあろうかと思しますので、国の検討チームがどういう報告を示すのか内容を踏まえまして、四州市としましてフォローのあり方や、措置入院の正しい理解の啓発も含めまして、四州市でできることがあればしっかりと検証をし、全国の自治体に先駆けるような対応策ができればいいと思っています。

【NHK】 今回、その検討を進める中で目指す新しい制度というか、今後の措置入院後のフォローの目指すべきあり方、どういう制度にしていきたいかということで、市長と知事に伺いたいんですが。

【相模原市長】 私どもはやはり、情報の広域的な共有化が必要だと思っております。

例えば、県境を越えてお住みになる方もいらっしゃるわけですが、まずは県内での転居の場合について、四州市の所管部局、詳細を十分に検討しまして、どのように情報を共有するかを定めていかなければならないと思っております。

【神奈川県知事】 私のほうからも。この問題は市長もおっしゃいましたけれども、四州市で済む話ではありません。現実問題として、県での検証委員会、そして、国での検証委員会、この検証の作業は今、大詰めを迎えているところであります。そんな中で四首長が集まってですね、四州市が集まって意思の統一をしたということだとお考えいただきたいと思います。今後のあるべき姿というのは、一つ、再発防止ということですね。再発防止のために、今回、私も事件の当日からお話を申し上げていましたが、情報共有のあり方に大きな問題があったような気がするということを申し上げてきました。それが今度の検証委員会の報告書でどんな形で打ち出されるのかということを見ながら、それに対応した形をつくっていく、それはあくまでも再発防止につながるような皆様が不安に思わないような、そういった体制をつくり上げていきたい。きょうは、その一つのプロセスだというふうに感じています。

【NHK】 ありがとうございます。幹事社からは以上です。

各社どうぞ。

【東京新聞】 東京新聞の井上と申します。

情報共有の部分なんですけど、それは本人の同意を必要としない上で共有できるような

仕組みをつくるという、そういう理解でいいんでしょうか。加山市長にお願いいたします。

【相模原市長】 本人同意をするかしないかも含めて、人権上の問題もありますので、よく内容を精査して、方向性を決めなくてはならないと思っています。

【東京新聞】 本人同意の部分で、そのもともと個人情報保護というのは、本人同意がある場合は適応除外になるわけですから、それ以外の部分で、例えば必ず本人同意をとるようにするとか、そういう仕組みがないとなんか新しい部分がないのかと思うんですけど、そのあたりはどうでしょうかね。

【相模原市長】 一番問題なのは、今回のような事件が二度と、起こらないようなシステムをつくらなくてはならないと思っておりますので、個人情報保護の問題も含めて、しっかりやっていきたいと思っております。

【事務局（相模原市）】 ほかにございますでしょうか。

【朝日新聞】 朝日新聞の白石です。

先ほど、加山市長もおっしゃったように、この問題というのは要するに四州市に留まらないわけですね。そういう面では、県境を越えて広域的に取り組んでいかなきゃいけない。先ほど、林市長がおっしゃったように、ましてこの問題というのは精神保健福祉法の改正の問題で言えば、いかに寄り添っていくかという問題が大きな構えというか、そのためには、ここの四州市というのはこれだけのボリュームで、政治的なボリュームでインパクトがあるんだから、例えば今回の事件で国のありようであるとか、警察がどうだったのか、そういったものも含めて、この四州市のまとまったものを国に働きかけるとか国にアピールする、ましては最終案が出る前にですね、そうすると今日の会議もそれなりに実効性があるのかと思うんですが、その辺について座長の考えをお聞かせください。

【相模原市長】 国の検討チームの最終報告は近々あると聞いておりますけども、そこで出される方向性というものを踏まえてですね、また今日の意見交換の中で、共有した部分、また確認をした部分、いずれにしても、こういう事件を二度と起こさないような体制、それと措置入院者に寄り添うことも含めまして、今後四州市でさらに検討を進めることになるわけです。事件があった翌日ですが、塩崎厚生労働大臣と直接お話をさせていただきまして、措置入院のあり方なども含めまして、なぜこういう事件が起きたのか、措置入院を担当した自治体の考え方もしっかりと受け入れていきたい、また話も

聞きたいと、お話をいただいております。せっかく四州市で集まって今回、いろいろな問題を議論させていただいて、共通認識を持ったわけですし、国が検証をされた内容だけでは留まらないものが今後出てくれば、国にしっかりと申し出をしていきたいと思っております。また、国が法改正をする必要があれば、それは国のほうでしっかりと制度をつくり上げていただきたい。

【朝日新聞】 そのタイミングとして、国がまとまる前に念のために、四州市はこういう考え方でいいんだよという…

【相模原市長】 必要であればしっかりとやりたいと思っております。

【事務局（相模原市）】 ほかにございますでしょうか。東京新聞さん。

【東京新聞】 東京新聞の原と申します。今後、措置入院解除後のフォローを検討していくにあたっての、前提を確認させてもらいたいんですが、先ほどの意見交換の中で、あまりに措置入院というものばかりがクローズアップされて、犯罪予備軍的な位置づけになってしまうことに、ご懸念の意見が黒岩知事、福田市長からあったように受けとめているんですけども、そのあたり四首長さんの共通の認識として、今回の事件と措置入院のあり方どういうふうに位置づけていかれるのかというのをまた確認をしたいのですが。取りまとめの座長とそれから知事、それから福田市長、お願いいたします。

【相模原市長】 措置入院のあり方の問題ですけども、黒岩知事からも今回、お話をいただいたわけですけども、犯罪性の高い場合の対応、自傷他害の恐れがあるような場合の対応、これらの見分け方ですとかフォローの仕方、今後どういう形であるべきか、しっかりといろんな角度や視点から見極めを行って慎重に基準なり方向性をつくり上げていく必要があると思っております。

【神奈川県知事】 今日、相模原市から出されました資料に基づいて、今後、連携した取り組みの中で、きちんと書かれているのは措置入院者の支援の充実という言葉でありまして、これは書かれているんですけども、私は繰り返し、この部分をしっかりと強調すべきだということを申し上げたわけでありまして。というのは、議論の流れというのは非常にデリケートな部分を含んでいるので、措置入院というものの制度そのものを、要するに、この人をそのまま社会に出すと犯罪を犯してしまうんじゃないか、だから隔離をしておいたほうがいいんじゃないかと、そのための措置が措置入院だというふうに思われてしまう、これは違っているんだということを我々、しっかりと確認しておくべきだということであえて申し上げました。

そんな中で、言葉には入っているんですけども、そのところは改めて強調する意味で、この合意文書の中に措置入院制度に関する正しい知識の普及・啓発等についても国への働きかけ等を検討することとしたという文章で取りまとめていただきました。

【川崎市長】 措置入院については、四州市で連携をしてこれまでもやっていきましたが、今回の事件を受けて、やはり入院のときとアフターフォローのところは、まだまだ、四州市で対応について様々な違いがあるというところが、改めて認識されたわけで、そのことについて四州市でより連携を強めていこうということが今回、確認ができたということは、いい成果だったというふうに思っています。単純にこの事件が契機となって、この問題がクローズアップされているわけですが、先ほども申し上げたようにこの事件だけを捉えてしまうと今、現状でも先ほどの会議の資料でもありましたとおり、神奈川県は全国と比べて措置入院者の数が非常に多いわけで、まさに当事者意識をもって、取り組んでいかななくてはならないというふうに思っています。この事件だけに余り集中し過ぎてこれからやらなくてはならないものを矮小化してはいけないなというふうな認識でおります。

【横浜市長】 今、福田市長もおっしゃいましたけども、障害のある方のご支援というのは、大変、大切な政策でございまして、これは私どもがすごく取り組んできたこととございまして。今回のやまゆり園での非常に残念な事件で、全国的にクローズアップしたということでございまして、障害のある方が差別なく心豊かに暮らしていくために、どうしたらいいかという問題、そこを外しちゃいけない、そこが一番ベースだと思えますね。それぞれ、相模原、川崎、横浜の政令市の三市の取組方はちょっと違うわけです。ですから、そういうお互いがどうやって、障害のある方を守ってきたか、取組をしっかりと話し合っ、情報公開をして、いい制度にすればすごくいいと思います。あと国のほうで検討を今、してらっしゃいますけど、どのタイミングかということは申し上げられないですけども、先ほど会議で申し上げましたが、財政的な問題が非常に大きいと思います。横浜市の場合は福祉保健センターが中心になって取り組んでいますけれども、人手が非常に少ない中でやっているわけですね。そういった事実もしっかりと国のほうにお伝えしていかなくてはなりませんし、知事がおっしゃった、措置入院について全くもって違った偏見が起きてしまっなくてはならない。措置入院をされた方は苦悩しているし、恐らく周りのご家族も大変な思いをしていると思うんですね。そういう方々が全て犯罪につながってしまうんだとか、危険人物だとか、そんなような偏見をもたれたら、今回

の事件でそこにつながってしまうのはまずいということは全くそのとおりだと思います。ですから、そこは福田市長がおっしゃったように、問題を切り離してやっていきたい。同じ気持ちでございます。

【事務局（相模原市）】 はい、ありがとうございます。

そろそろ、お時間もございますので、このあたりで記者会見は終了させていただきたいと思っておりますけれども、よろしいでしょうか。

それでは、ありがとうございました。

以上をもちまして、記者会見は終了させていただきます。